

令和7年度「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告

春日井市立鳥居松小学校

事業テーマ	よりよい関係を築き、対話を通して学びを深める児童の育成 —「また明日来たい！」を実現する授業づくりを目指して—
取組の目的	児童が「また明日来たい！」と思える授業づくりをしていくためには、児童がよりよい人間関係を築き、主体的対話的に学ぶことができる学級経営力、授業力を教員が身につけていくことが大切だと考えています。そのため、よりよい学級づくりを基盤とした児童の深い学びを実現していくための授業づくりをめざすこととしました。
区分	継続事業3年目(総事業年数 3年間)

事業1:授業改善のための校内研修①

7月31日に岐阜聖徳学院大学准教授の加藤拓由氏を講師としてお招きし、学級経営を土台とした授業づくりについて学びました。今年度は学級経営や学習活動で役立つ生成AIの活用法について、キャンバの機能を中心に学びを深めました。

今回の学びを通して、学級経営や授業における、より子どもを主体的に活動させることができる手がかりが得られました。



事業2:授業改善のための校内研修②

8月4日に、関西学院大学初等部教諭の宗實直樹氏を講師としてお招きし、個別最適な学びと協働的な学びを念頭において授業づくりについて学びを深めました。講師による社会の模範授業を受け、個別最適な学びと協同的な学びの学習活動を体験しました。身近な物を教材として、学習内容を自分事として捉えながら学ぼうとする意欲をもたせることができることを確認しました。また、普段何気なく見ている身の回りにあるものが問題解決の手がかりとなることも実感し、授業づくりの手がかりを得ることができました。



事業3:学級経営力向上のための校内研修

10月20日に、愛知教育大学非常勤講師の深見太一氏を講師としてお招きし、本校教員による研究授業をご参観いただきご指導いただくとともに、学級活動を通した自治的な学級づくりについて学びました。特別活動の授業（クラス会議）を全職員で参観した後に協議会を行い、自治的な学級していくためのプロセスや、各段階における教師の支援について意見交換を行いました。

深見先生からは、意見を発表することが苦手な子どもでも、課題に対して考えているし、自分の考えはもっている。それが、学級にとって非常に有益な意見のこともあるとお話をいただき、子どもたちが自分の考えを表現しやすくなるための雰囲気作りがまずは大切だと確認しました。体験を交えた講話を通して、雰囲気作りのためのアイスブレイクを取り入れた場の設定や聴く姿勢、学級活動で子どもが活躍することができる手立てを学ぶ機会となりました。



取組の成果

今年度の事業を通して、主体的に学級づくりに参画するための理論や技法について継続して学んだことで、学級活動だけでなく教育活動の様々な場面においても人間関係づくりを意識した指導および支援を今まで以上に意識して行うことができるようになりました。

教科の特色をいかして各学級の雰囲気および発達段階に応じた授業づくりに心がけ、一人一台端末を活用しながら子ども同士で学ぶ学習場面を設定し、主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善に取り組みました。

また、講師の助言を受けて児童の学び合いを行う機会を設け、5年生が6年生の学級活動のようすを見学したり、6年生がクラス会議のポイントを5年生に伝えたりしました。子ども同士の学び合いの素地となりました。

このことから、本事業が講師からの専門的な知識・技能の享受だけでなく、校内の職員どうしてもお互い学び合おうとする意識の高まりにもつながりました。今後も継続して職員一同学び続けていきます。

